

株式会社中外燐寸社 代表取締役 田中 礼一郎 氏

環境に優しいマッチ社を目指して

この度、当社の木質バイオマスボイラーを導入いただきました。株式会社中外燐寸社代表取締役 田中 礼一郎氏に同社の環境への取組みやバイオマスボイラー導入の背景についてお話を伺いました。



事業内容について教えてください。

当社は明治 23 年に創業し、岡山県岡山市で 130 年以上にわたりマッチの製造を行っています。現在、国内にはマッチ製造会社が 2 社しかなく、その一つとして、伝統を重んじながらも新しいことに挑戦する姿勢を大切にしています。

マッチは主に仏事において使用されますが、当社はその用途にとどまらない製品を開発しています。例えば、アロマキャンドルやお香を楽しむ時のお洒落なマッチ「HOWARI」や再生可能なトレーシングペーパーや紙ラベルなどを紙ホッチキスで留めて包装した土産品「ももたろうスペシャルティ」、地元岡山産の蜜蝋や染料などを使用したキャンドルなど様々なエコな製品を売り出しています。

製品の特徴について教えてください。

当社のマッチの大きな特徴には硫黄を使用していないということが挙げられます。硫黄が燃焼する際に生じる亜硫酸ガスは、ぜんそく発作を誘発する可能性があるため、当社では「脱硫マッチ」を 20 年かけて開発し、昭和 51 年に特許を取得しました。この脱硫マッチは当初全く評価されませんでした。約 50 年後の令和 4 年に JR 西日本岡山支社の「ふるさとおこしプロジェクト」の「第 14 回あつ晴れ認定委員会」のテーマ「持続と進化」のあつ晴れ認定品にノミネートされ、ついに「あつ晴れ！大賞」を受賞しました。

※岡山・備後エリアに眠る、ここにしかない「ええとこ」「ええもん」「うめえもん」を見つけ出して評価・認定する制度で、中でも特に優れたものが「あつ晴れ！大賞」に認定される。



貴社は「再エネ 100 宣言 RE Action」にも参加されていますが、環境への高い意識が生まれたきっかけについて教えてください。

前述のとおりマッチは仏事での使用が多いのですが、高齢化の影響により今後需要が減少する懸念があります。その中で、改めてマッチの持つ特徴を見直したとき、マッチは木と紙から作られており、使用後は全てが土に還る「環境に優しい製品」であると気づきました。これが、時代のニーズに合っているのではないかと感じたのがきっかけです。

また、5 年ほど前に工場の屋根を大規模に修繕することになり「環境に優しい製品をつくる会社として、この機会に太陽光パネルを設置しよう」との発想から、再生可能エネルギーの活用に取り組むようになりました。

※企業等の電力需要家が、使用電力を 100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示すことで市場や政策を動かし、社会全体の再エネ利用 100%を促進する枠組み。参加団体は、遅くとも 2050 年までに使用電力を 100%再エネに転換することを宣言し、目標年を定めて毎年進捗状況を報告している。

具体的な再生可能エネルギーの活用方法について教えてください。

工場や事務所の屋根に太陽光パネルを約 350 枚設置し、事務所については蓄電池を導入しています。これにより、天気の良い日は当社で使用する電力の 100%を太陽光で賄うことができおり、余剰分は売電を行っています。また、それによる CO2削減量は J-クレジットに登録済で、売却益は社会貢献活動に活用して頂く予定です。天候不良などで電力が不足した場合には、電力会社から CO2フリー電力を供給していただく契約を結んでいます。また社有車もガソリン車から電気自動車に変更し、発電した電気を事務所に設置した蓄電池に蓄電し、そこから充電して活動を行っています。



木質バイオマスボイラーを導入した背景を教えてください。

今回の木質バイオマスボイラー導入にあたっては、こうした環境への配慮を進めてきた流れの中にあります。マッチの製造においては、頭薬を乾燥させる重要な工程があります。これまでその工程には年間 4,000-6,000L の重油を消費する重油ボイラーを長年使用していました。重油ボイラーの更新にあたり、電力だけでなく熱エネルギーにおいてもより環境に優しいものに転換できないかと考え、木質バイオマスボイラーの導入に踏み切りました。

木質バイオマスボイラーの導入にあたり、苦労したことはありましたか。

木質バイオマスボイラー導入の検討段階では、国内での導入事例が少なかったことから、情報収集に苦労しました。その中で極東開発工業の木質バイオマスボイラーを知り、ご縁をいただいたことで、今回の導入が実現しました。導入に当たっては、ガスボイラーのほうがコスト的に安価であるため、社内では慎重な意見もありましたが、補助金を活用することで初期投資を抑えることができました。

導入してからの効果はありましたか。

まず、バイオマスボイラーを導入したことで、当社で使用しているエネルギーは全て、再生可能エネルギーで賄われていると言えるようになりました。マッチという環境に負荷をかけない製品を製造している当社にとって、これは大きな前進であったと自負しています。導入したボイラーは、乾燥工程だけではなく、それまでガスや灯油を熱源としていた工場内と事務所内の給湯用途にも使用しており、一台のボイラーで三つの用途を担えています。

さらに、エネルギーのみならず、廃棄物の面でも良い影響がありました。これまで廃棄していた不良品の軸木をバイオマスボイラーの燃料として使用することで、廃棄物の発生抑制や資源の有効活用につながりました。燃料としてそのままでは使用できないため、手をかける必要がありますが、それでも木質バイオマスボイラーを導入して良かったと感じています。

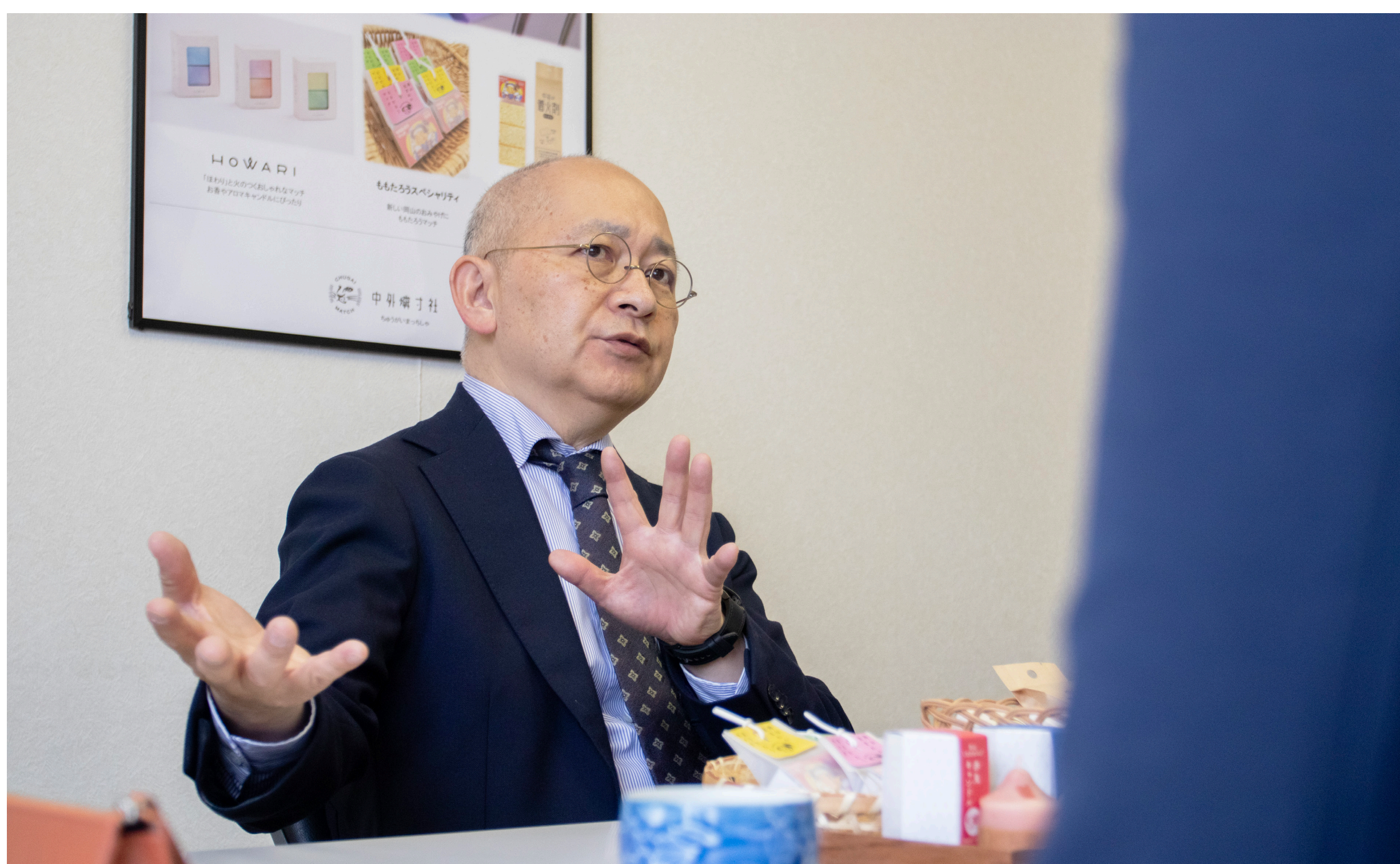


今後の展望を教えてください。

今後は工場にも蓄電池を設置し、太陽光の余剰発電分をさらに有効活用したいと考えています。つまり蓄電された電気を雨天時などに放電することにより、現在電力会社から購入している電力を大幅に削減でき、より自信を持って環境に優しい会社だといえるようになると思っています。

また、これからは工場見学の受入れも積極的に行っていきたいと考えています。最近では、マッチを使用したことがない子どもたちも増えてきていると思うので、製造工程の見学やマッチを使った体験を通じて、マッチや当社に興味を持っていただけたらと思っています。

これからも多くの人にマッチの魅力を知っていただけるよう、様々な機会を設け、新たな製品づくりなどを通して、環境や社会の改善に微力ながらも貢献していきたいです。



株式会社 中外燐寸社 <https://chugai-match.co.jp/>

編集後記

今回のインタビューを通じて、田中社長の温かなお人柄と中外燐寸社様のマッチづくりに込める思い、そして環境への真摯な取組みを強く感じました。

当社は今年創立 70 周年を迎えます。同じ“ものづくり企業”として、130 年以上の歴史を持つ中外燐寸社様の新たなことにチャレンジする姿勢や、環境に対する持続可能な取組みから多くのことを学ぶことが出来ました。

これからも当社はステークホルダーの皆さまと協働し、より良い社会づくりに貢献できるよう活動して参ります。